

第33期営業のご報告

(平成11年4月1日～平成12年3月31日)



売上高



経常利益



当期純利益



株主資本



総資産



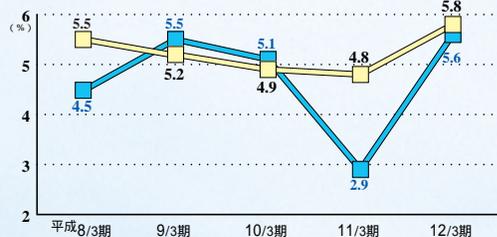
1株当たり株主資本



1株当たり当期純利益 [EPS]



株主資本当期純利益率 [ROE]



TOP INTERVIEW

21世紀、変化する医療環境を見据え、 社会の健康ニーズにお応えするため、 新たな価値の創造を目指す…。



当社は当期、東証第一部・大証第一部昇格を果たしました。これもひとえに日頃、株主の皆様方からのご支援のおかげと心から感謝しております。新世紀においても、さらに豊かな健康社会づくりを目指してまいります。ここに当期の連結の業績をご報告するとともに、今後目指す事業戦略について説明させていただきます。

第33期業績のご報告

今期の業績はいかがでしたか。

全体的に見ますと、連結ベースでは減収増益となりました。製品の販売数量は増加し、海外での現地通貨ベースによる売上も順調でした。しかし、円高の影響と欧州および中国での商流変更により、連結売上高は37,243百万円(前期比2.9%減)となりました。国内市場では、販売・サービス活動の強化に努めるとともに、ネットワーク機能を有した新製品「多項目自動血球分析装置XE-2100」の本格的な市場導入をはじめ、1999年4月より販売を開始したAVL社の血液ガス・電解質分析装置、IT(情報技術)を活用した臨床検査情報システムが好調で、業績は順調に推移しました。

米国市場では、販売・サービス体制整備の遅れにより当期売上には寄与できなかったものの、体制

の整備も完了し、次期は売上の拡大が期待されま
す。欧州地域では、「XE-2100」の本格的な導入も
あり、現地通貨ベースでは前期に引き続き順調な
伸びを見せています。

また、アジア地域では、それぞれのニーズに適し
た製品を提供しており、拠点整備の効果もあり業
績は良好でした。

利益面においては、国内が順調に推移したこと
と、米国での販売体制が整い販売子会社の損益
が大幅に改善したことに加え、原価の低減、販売
費及び一般管理費の抑制に努めた結果、連結経
常利益は3,197百万円(前期比3.6%増)となりまし
た。連結当期純利益は税効果会計の導入もあり、
1,838百万円(前期比101.1%増)となりました。

(注)欧州および中国における商流変更の影響(海外連結子会社経由
に変更)により、2000年1月から3月の売上高が連結消去されています。

21世紀においてもさらにグローバルな視点で独自の強みを活かした事業を積極的に展開

今後の欧州、北米、中南米諸国における事業展開についてどのようにお考えですか。

欧州、北米では、ロシュ社やデイドベーリング社などのアライアンスをさらに活用し、シェアの拡大を図ります。また、今後の医療ネットワーク化をにらんだ、IT関連事業も積極的に展開します。北米市場に向けた尿関連製品の本格的市場導入も行う予定です。

一方、中南米においては本年2月、ブラジルに試薬生産拠点を開設。4月には中南米に強みを持つロシュ社とのアライアンスを活用した販売体制の強化を目的に、アメリカの販売子会社のオフィスをマイアミに開設しました。まさにこれらの地域は、21世紀における有望なニューマーケットと考えています。

日本を含めたアジアマーケットについてはいかがですか。

ここ数年行ってきた拠点整備の成果を活かし、品揃えの充実を図り、アジアでのNo.1総合サプライヤーを目指します。

日本市場では、オムロンからの血液像検査システム事業の譲り受けによる製品の販売開始をはじめ、AVL社やロシュ社とのアライアンスでPOCT(ポイントオブケア テスティング)製品の品揃えがさらに充実します。また、IT関連をはじめ、新規事業にも積極的に取り組みます。

アジア市場においては、本年3月に上海と香港に販売会社を設け、さらに中国にはITの開発拠点を設立する予定です。また、シンガポールには試薬工場

の設立を計画。それぞれの地域のニーズに応じた製品を提供していくことが大切であると考えています。

さらに広く、深く、
21世紀での豊かな健康社会づくりを目指して...

今までの独自性の高い技術を活かし、展開されている新規事業分野への取り組みについてお聞かせください。

まず、POCT分野についてですが、この領域では欧米が一步進んでいます。ICUや手術室、ベッドサイドなどで、必要など患者のすぐそばで行うこの検査は、医療費の抑制や検査の迅速化に有用で、これからさらに需要が見込めると予測しています。私たちはさらにこの分野での品揃えの充実を図るとともに、ITを活用した検査の効率化や医療データのネットワーク化など、新たな価値の創造に向けて取り組みます。

新規事業分野のひとつである科学計測分野への取り組みについてはいかがですか。

今、さまざまな工業分野で、電池材料や複写機に使用するトナーなどの粒子の微細化に対するニーズが高まっています。これからはより品質管理等が重要となり、私たちの持つ高度な粒子計測技術を工業粒子測定分野で活かそうとしています。当社製品に加えて、マルバーン社とのアライアンスにより、日本でNo.1の品揃えが可能となっています。



本年4月には東京と神戸にパーティクルアナリシスセンターを開設し、サンプル測定を行う受託試験を開始しました。新製品「FPIA-2100」「SD-2000」の市場導入も行い、本年からはこの分野での本格的な海外市場展開も推進していきます。

「IT」と「新たなコアテクノロジーの創出」が21世紀におけるさらなる成長へのキーワード

今、社会が注目している「IT革命」。システムクスではどのような事業展開をお考えですか。

私たちは医療とは膨大な患者のデータを取り扱う、情報産業であると考えています。まず、検査を行い、次に医師がデータを分析し診断を行います。そして、データを確認しながら治療の手段を決定します。今後、医療の効率化を推進し、電子カルテや遠隔医療に対応していくためには、この流れを標準化、一元化することが重要であり、ITを活用した医療データのネットワーク化が不可欠となります。当社では以前から、アメリカ、ベルギー、そして、日本の世界三極体制で積極的にソフトウェアの開発に取り組んできました。本年3月にはフランスにIT販売の拠点を設立。5月にはアメリカの開発拠点をシカゴから、先進の臨床検査情報システム技術が集積されているアリゾナに移転。9月には中国にも開発拠点を開設する予定です。

これからの医療は、病院と病院、医師と患者を結ぶネットワークの整備が重要になります。当社ではITの活用によって、21世紀の医療の現場における、新たな価値を創造していきます。



次に、新たなコアテクノロジーについてお聞かせください。

21世紀は本格的な高齢化社会が到来します。その環境下では病気の予防が重要なテーマとなり、「新しい検査」の必要性が高まると考えています。新しい検査とは、病気にかかる可能性や予兆を発見することです。そこで、遺伝子がほぼ解析されつつある現在、ポストゲノムに関わる研究が重要となります。これらの課題に取り組むため、本年4月に新しい中央研究所を開設しました。21世紀に向けた新たな価値を創造し、これからの検査ニーズにお応えするため、新たなコアテクノロジーの創出に取り組みます。

最後に株主の皆様方に一言お願いします。

先程も巻頭でご報告しましたが、当期、おかげさまで東証・大証一部昇格を果たすことができました。それに加えて、この1年で約4,000名の方々に新しく株主になっていただきました。この多大なるご期待にお応えできるよう、さらなる業績の向上に努める決意です。今後もより一層のご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

取締役社長

家次 恒



新世紀での新たなコアテクノロジーの創出と独創的な技術や人材を育成する拠点

21世紀型“中央研究所”ついに誕生!!

基礎研究のさらなる充実を図る、新しい中央研究所が本年4月に完成しました。21世紀を担う新たなコアテクノロジーの創出と、現コアテクノロジーのより一層の強化。そして、次世代に向けた創造的な人材を育成することを目的としています。中心となる研究は、今後の重要な医療課題である、病気にかかってからでなく、病気になる可能性を早期に発見し対処するという、予防医学の分野に貢献できるテーマへの取り組みです。人間・自然・施設の調和をキーワードに、企業や大学などの研究機関との国際的な技術交流、共同研究の場として、オープンコミュニケーション空間を設置。より快適な研究環境を追求しました。また、国内外から医療各分野でトップレベルにある方々をお招きして、さまざまな角度から助言をいただき、「アドバイザーレポート」を導入。未来に向けて、さらに豊かな健康社会づくりに貢献できる企業研究所として、新たな価値を創造するテクノロジーの開発に取り組みます。

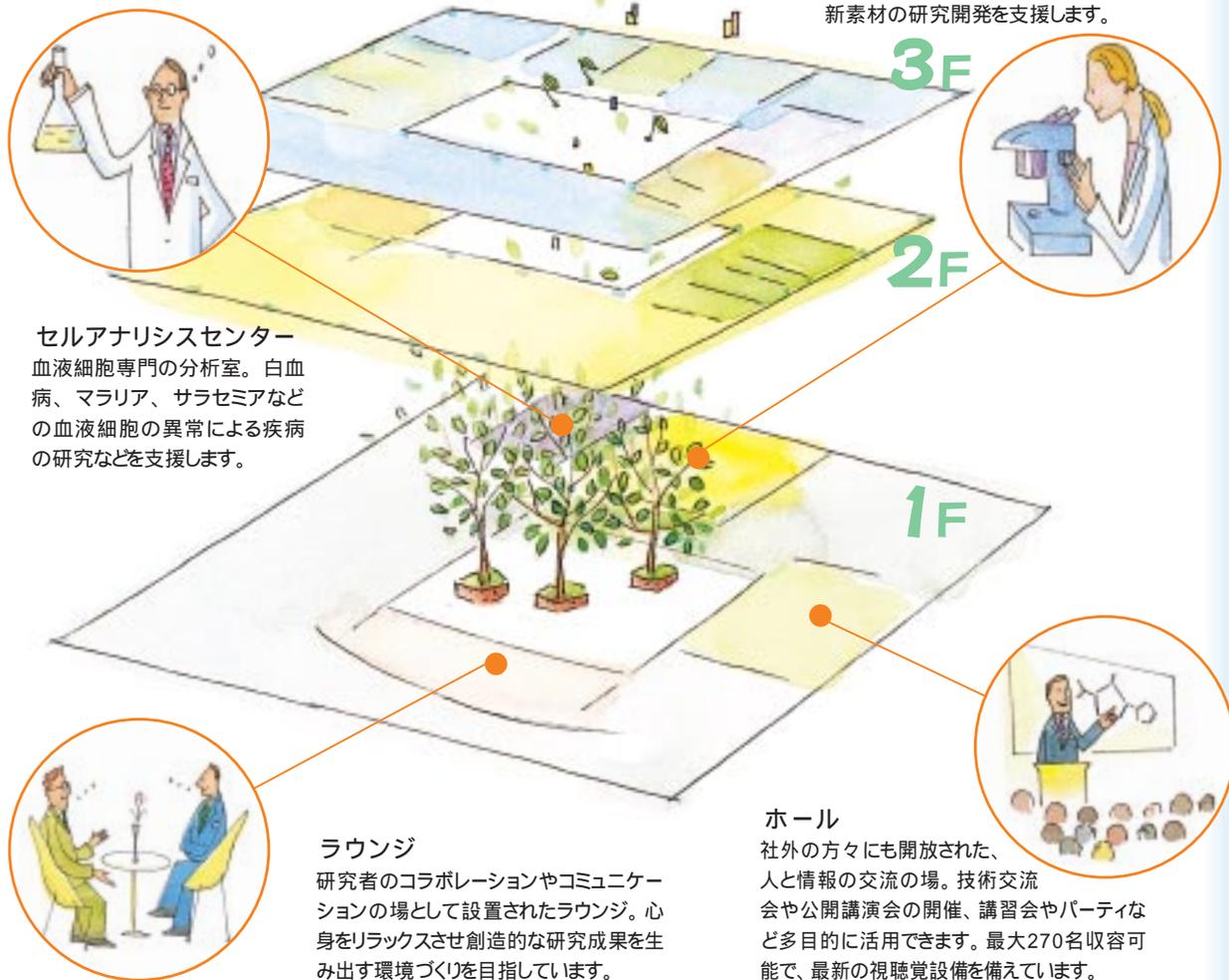


自然の声に“耳をすます”

開放的なアトリウムの3本の樹木。人が近づくと頭上からさまざまな声が聞こえてきます。これは、葉の表面が環境の変化を感知して起こす、微弱な電位変化を音に変換するTOA(株)のプラントロン技術を用いて実現しています。

「社会に開かれた企業研究所」を目指し、「セルアナリシスセンター」と「パーティクルアナリシスセンター」は、技術交流や共同研究を主たる目的としています。血液細胞分析と粒子計測に関する最高水準の分析装置と技術により、次世代テクノロジーの創出を広く社会的に支援します。

パーティクルアナリシスセンター
各種工業粒子（複写機のトナー粒子、薬剤、電池材料、セラミックスなど）の形状・性質の分析評価を専門的に行う施設で、各種サンプルを測定する受託試験にも取り組み、新素材の研究開発を支援します。



セルアナリシスセンター
血液細胞専門の分析室。白血病、マラリア、サラセミアなどの血液細胞の異常による疾病の研究などを支援します。

ラウンジ
研究者のコラボレーションやコミュニケーションの場として設置されたラウンジ。心身をリラックスさせ創造的な研究成果を生み出す環境づくりを目指しています。

ホール
社外の方々にも開放された、人と情報の交流の場。技術交流会や公開講演会の開催、講習会やパーティなど多目的に活用できます。最大270名収容可能で、最新の視聴覚設備を備えています。

東証・大証一部昇格。

2000年3月1日、東京証券取引所・大阪証券取引所市場第一部への昇格を実現しました。1999年9月末時点で株主様が大幅に増え、全ての審査基準をクリア。1995年11月に大阪証券取引所第二部に上場後、約4年で一部上場企業の仲間入りを果たすことができました。これからは、一流企業にふさわしい「質」をより高め、21世紀における健康社会づくりに貢献するとともに、さらなる業績向上を目指します。



さらなる事業の拡充を目指し、第1回無担保転換社債を発行。

経済環境が著しく変化する時代において、どのような状況にも柔軟に対応できる強固な財務体質の確立と、積極的な事業展開のための設備投資を目的とし、2000年3月16日、4年物の転換社債を発行しました。この資金は、21世紀での新たなコアテクノロジー創造の拠点となる中央研究所の建設、機器生産工場である加古川工場の増強、シスメックスヨーロッパの欧州物流センターの設置などに充当します。

成長著しい中国市場の事業拡大を図るため、上海・香港に現地法人設立。

この5年間でグループ売上が約2.7倍に伸び、血球計数装置分野でシェアNo.1を誇る中国マーケット。アジアを21世紀の重要市場と位置づける私たちは、この広大な国においてより一層の販売・サービスネットワークの充実を図るため、上海と香港に現地法人を設立しました。ともに2000年3月1日より本格的に業務をスタート。今後、北京、広州をはじめとした主要都市に拠点を設け、中国全土で地域に密着した販売・サービス網の確立を目指します。



希森美康医用電子(上海)有限公司

ブラジルの試薬生産工場が始動し、本格的に中南米市場へ参入。

南半球では初めてとなる関係会社「SYSMEX DO BRASIL」が、2000年2月現地の試薬生産を本格的に開始しました。また、4月にはアメリカ・マイアミにアメリカの販売会社のオフィスを開設。中南米市場に向けた販売体制の強化を図るとともに、ロシュ社の販売・サービスネットワークを活用し、中南米市場で積極的に展開します。



SYSMEX DO BRASIL

21世紀の医療環境を見据え、フランスにIT事業基盤の強化を図る新拠点を開設。

現在、急速に進歩する医療分野におけるIT（情報技術）。当社ではかねてより、アメリカ、ベルギー、日本に開発の拠点を据え、検査情報システムを主力とするIT事業の拡大を図ってきました。この度、21世紀における医療関連ビジネスに不可欠ともいえるIT事業のさらなる体制の強化を目指し、2000年3月、欧州第2の市場であるフランスにITの販売・サポートを行う新たな拠点を設立。5月にはアメリカ・シカゴのIT開発拠点を世界の臨床検査情報システムの技術が集約されているアリゾナ

に移転。9月には、上海にもITの開発拠点の設立を予定するなど、よりグローバルな視点でのIT事業基盤の拡大を目指します。

ロシュ社と新たに中南米・オセアニア市場での販売・サービス契約を締結。

世界的ヘルスケアメーカーであるロシュ社とは1998年5月にグローバルなアライアンス契約を締結。その後、アメリカ、フランス、スペイン各国での契約を結び、1999年12月、ロシュ社が強みを持つ中南米・オセアニア市場を中心とする約30カ国において、当社の血液分析装置の販売・サービス契約を締結しました。今後、さらなる世界市場でのシェアアップが期待されます。



ロシュ社の尿自動分析装置、尿試験紙の日本国内における販売・サービス契約を締結。

当社は以前より尿検査分野において、病院などで使用する尿沈渣検査用の分析装置を販売していました。今回は、この分野での総合的な事業拡大を図るため、2000年3月28日、尿定性検査に使われるロシュ社の尿自動分析装置と尿定性試験紙の国内市場における販売・サービス契約を締結し4月よりスタートしました。これにより、尿沈渣検査と尿定性検査の両方の品揃えが整います。また、IT技術を用いて尿検査分野でのトータルな提案が可能な、国内唯一の総合サプライヤーとしての地位を確立しました。

オムロン株式会社より
血液像検査システムの事業を譲受。

2000年5月11日、当社はオムロンが所有していた血液像検査システム商品の営業権、知的財産権、開発・生産に関するノウハウを譲り受ける契約を締結しました。これにより、末梢血一般検査の一連の自動化

商品がすべて揃うことになり、顧客の幅広いニーズに合わせた独自の提案が可能になります。販売面においても、当社の海外ネットワークを通じ、世界市場での売



上拡大が期待できます。さらに、当社の得意とするIT技術とオムロンのデジタル画像技術を組み合わせた連携システムなど新たな付加価値の高い提案が行えます。

機器生産工場の加古川工場とドイツの試薬工場が ISO14001 を取得。

2000年4月7日、当社の加古川工場が環境保全に関わるISO14001の認証を取得しました。1999年11月には、欧州での試薬生産の拠点であるシスメックスヨーロッパのドイツ・ノイムンスター工場がグループとしては最初にISO14001を取得しています。2000年度中には試薬生産の小野工場、2001年度中にはR&Dの拠点であるテクノセンターでの取得を目指しています。

Y2K問題にも万全を期して、
無事2000年を迎える。

世界的関心事となったコンピュータ2000年問題。医療に関する製品を取り扱う当社は、重要課題として2000年プロジェクトを設置し、対応策を実施してきました。その結果、当社製品、社内システムともに特に大きな問題もなく、2000年を迎えられたことをご報告いたします。

株主の皆様へ

シスメックス・オリジナルソングのCDをプレゼントします。

今年4月に発表したシスメックス・オリジナルソング「To the Future ~ Futuristic Pulse」のCDを1,000名様にプレゼントします。日本語バージョンはダ・カーポ、英語バージョンはPEABO BRYSON、ドイツ語バージョンはDomino Blueが歌っています。



CDご希望の方は、シスメックス株式会社広報室までご応募ください。締め切りは7月末日です。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。なお、当選者の発表はCDの発送をもってさせていただきます。

オンラインで新しいネットワークサービスを提供
SNCS(シスメックス・ネットワーク・コミュニケーション・システム)

お客さまに安心して製品をお使いいただくためのネットワークサービス。病院や検査センターの製品と当社テクニカルサポートセンターの端末を接続し、オンラインサポートやオンラインQCを提供するコミュニケーションシステムです。画像情報を電話回線を通じて受送信できる、血液分析装置 XE-2100 のシステムを応用して開発。今後、医療現場のニーズに対応した付加価値の高いシステムです。
(1999年12月1日発売)



科学計測市場の拡大を図る期待の新製品
シースフロー電気抵抗式粒度分布測定装置
SD-2000

医療分野で高い評価をいただいているシースフロー技術を活かし、今までにない高度な分解能と正確で再現性の高い測定が可能になりました。特に高機能粉体、電子材料などを対象とした工業分野から注目されています。コストパフォーマンスを追求した価格設定で、国内市場だけでなく、海外市場においても大いに期待できる、科学計測市場に向けた戦略的新製品です。



(2000年4月28日発売)

B型肝炎の早期診断や効果的な治療に貢献
B型肝炎診断検査試薬
ランリームHBeAb ランリームHBeAg

今までのB型肝炎診断試薬は、ウイルスの活動が盛んな早期においては抗原濃度が高すぎるため測定に限界がありました。今回発売の検査試薬は測定レンジが広いため、困難であった高濃度領域の変動を検出することが可能になりました。また、抗体の検出能力が高く、従来の試薬より早期に確認することができます。この発売によりB型肝炎ウイルス検査試薬のラインナップが5種類に増え、主要検査項目すべてが測定できるようになりました。
(2000年2月21日発売)



在宅心電図検診サービスに対応した
家庭用超小型携帯心電計 ハートシグナル

自宅でも、外出先でも自分で心電データが測定でき、収録されたデータはただちに電話回線で専門医に送られ、診断結果と心電図グラフが当日中に返送される、在宅心電図検診サービスに対応した ハートシグナル。体に異常を感じた時はもちろん、日常的に心電図をとることは心臓性突然死を予防するための有効な方法です。胸ポケットに入る名刺サイズで、記録時間32秒の簡単操作。生活者に安心を提供するこれからのヘルスケアビジネスに向けた新製品です。

本製品は日本メディカルソフト社により開発されたもので、当社が特約代理店として販売します。

(1999年11月15日発売)



連結子会社および関連会社



国内関係会社

メディカ株式会社
トーアメディカル株式会社
シスメックス物流株式会社
株式会社 アール・イー・システムズ*

海外関係会社

- ① SYSMEX UK LIMITED(イギリス)
- ② SYSMEX BELGIUM S.A.(ベルギー)
- ③ SYSMEX MOLIS S.A.(ベルギー)
- ④ SYSMEX FRANCE S.A.R.L.(フランス)
- ⑤ SYSMEX EUROPE GMBH(ドイツ)
- ⑥ SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ)
- ⑦ SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PVT. LTD.(インド)
- ⑧ SYSMEX (THAILAND) CO., LTD.(タイ)
- ⑨ MED-ONE CO., LTD.(タイ)*
- ⑩ SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD(マレーシア)
- ⑪ SYSMEX SINGAPORE PTE LTD(シンガポール)
- ⑫ 済南希森美康医用電子有限公司(中国)
- ⑬ 希森美康医用電子(香港)有限公司(中国)
- ⑭ 希森美康医用電子(上海)有限公司(中国)
- ⑮ SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.(アメリカ)
- ⑯ SYSMEX CORPORATION OF AMERICA(アメリカ)
- ⑰ SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC.(アメリカ)
- ⑱ SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA(ブラジル)

* 持分法適用関連会社

平成12年3月31日現在

損益計算書

科目	当期		前期	
	平成11年4月1日から平成12年3月31日まで		平成10年4月1日から平成11年3月31日まで	
	連結	単独	連結	単独
売上高	37,243	31,543	38,337	30,194
売上原価	15,406	13,900	15,272	13,075
売上総利益	21,837	17,643	23,064	17,119
販売費及び一般管理費	18,219	14,195	19,663	13,799
営業利益	3,617	3,447	3,400	3,320
営業外収益	355	656	237	659
営業外費用	774	584	552	470
経常利益	3,197	3,519	3,086	3,508
特別利益	95	115		
特別損失	114	145	80	71
税引前当期利益	3,178	3,489	3,005	3,437
法人税・住民税及び事業税	1,877	1,663	2,070	1,882
法人税等調整額	545	112		
少数株主利益(控除)	7		21	
当期純利益	1,838	1,939	913	1,555
前期繰越利益		586		599
過年度税効果調整額		266		
税効果会計適用に伴う特別償却準備金取崩高		0		
中間配当額		209		209
利益準備金積立額		20		20
当期末処分利益		2,562		1,925

経常利益 (連結・単独)

円高の影響により、為替差損(営業外費用)を連結490百万円、単独476百万円計上しましたが、原価の低減並びに販売費及び一般管理費の抑制等に努めた結果、連結経常利益は3,197百万円(前期比3.6%増)、単独経常利益は3,519百万円(前期比0.3%増)となりました。

売上(連結)

主要製品の販売数量は全体的に前期を大きく上回りましたが、円高の影響と欧州及び中国における商流変更等により、連結売上高は37,243百万円(前期比2.9%減)となりました。

国内:18,119百万円(前期比8.5%増)
海外:19,124百万円(前期比11.6%減)

(注)欧州および中国における商流変更の影響(海外連結子会社経由に変更)により、2000年1月から3月の売上高が連結消去されています。

売上(単独)

検査の効率化と迅速化を推進する新製品「多項目自動血球分析装置XE-2100」の販売、アライアンスによる品揃えの拡充、海外での販売強化などの積極的な営業活動の結果、円高の影響はありましたが、売上高は31,543百万円(前期比4.5%増)となりました。

国内:18,110百万円(前期比8.4%増)
海外:13,433百万円(前期比0.4%減)

当期純利益(連結・単独)

米国販売子会社の損益改善、税効果会計の採用等により、連結当期純利益は1,838百万円(前期比101.1%増)、単独当期純利益は1,939百万円(前期比24.7%増)となりました。

貸借対照表(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成12年3月31日現在	前期 平成11年3月31日現在
資産の部		
流動資産	31,871	26,409
固定資産	17,551	16,074
繰延資産・為替換算調整勘定	543	29
資産合計	49,966	42,513
負債の部		
流動負債	10,122	9,759
固定負債	6,164	999
負債合計	16,286	10,759
少数株主持分	84	74
資本の部		
資本金	3,384	3,384
資本準備金	5,560	5,560
連結剰余金	24,650	22,733
資本合計	33,595	31,679
負債・少数株主持分・資本合計	49,966	42,513

総資産(連結・単独)

総資産は前期に比べ連結で約70億円、単独で約60億円増加しております。主な要因は第一回無担保転換社債50億円の発行によるものです。

連結剰余金計算書

科目	(単位:百万円)			
	当期 平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで		前期 平成10年4月1日から 平成11年3月31日まで	
連結剰余金期首残高	22,733			
その他剰余金期首残高			22,130	
利益準備金期首残高			206	
過年度税効果調整額	541	23,275		22,336
連結剰余金増加額				
連結子会社増加による剰余金増加	64	64		
連結剰余金減少額				
配当金	460		460	
役員賞与	68		56	
(うち監査役賞与)	(8)	528	(9)	516
当期純利益		1,838		913
連結剰余金期末残高		24,650		22,733

キャッシュ・フロー計算書(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,657	
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,659	
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,008	
現金及び現金同等物に係る換算差額	187	
現金及び現金同等物の増加額	5,818	
現金及び現金同等物の期首残高	4,083	
現金及び現金同等物の期末残高	9,901	

貸借対照表(単独)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成12年3月31日現在	前期 平成11年3月31日現在
資産の部		
流動資産	27,098	23,571
固定資産	20,728	18,213
繰延資産	79	—
資産合計	47,906	41,785
負債の部		
流動負債	7,701	8,253
固定負債	5,776	779
負債合計	13,477	9,033
資本の部		
資本金	3,384	3,384
法定準備金	5,864	5,811
剰余金	25,179	23,555
資本合計	34,429	32,752
負債及び資本合計	47,906	41,785

利益処分(単独)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで	前期 平成10年4月1日から 平成11年3月31日まで
当期末処分利益	2,562	1,925
特別償却準備金取崩額	1	12
計	2,564	1,937
利益処分数額	1,856	1,351
利益準備金	32	31
配当金	250	250
	1株につき普通配当10円 記念配当2円	1株につき普通配当10円 記念配当2円
役員賞与	73	68
(うち監査役賞与)	(8)	(8)
別途積立金	1,500	1,000
次期繰越利益	707	586

(注) 当期は1株につき10円の間接配当を実施いたしました。

配当性向 / 1株当たり配当額



配当政策

【利益配分の基本方針】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つと位置づけており、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

【当期の配当決定に当たっての考え方】

当期の利益配当金につきましては、上記の基本方針および今期の業績を勘案のうえ、普通配当として当期中間配当金と同じく1株につき10円とし、これに東京証券取引所市場第一部および大阪証券取引所市場第一部上場記念配当2円を加え、1株につき12円とさせていただきます。これにより当期の年間配当金は、1株につき22円(普通配当20円、記念配当2円)となります。

株式の状況

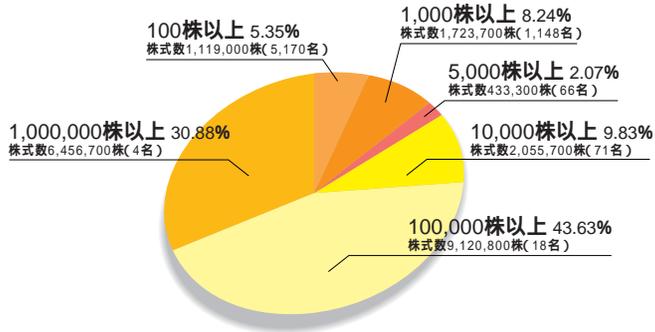
会社が発行する株式の総数

74,836,000株

発行済株式総数

20,909,200株

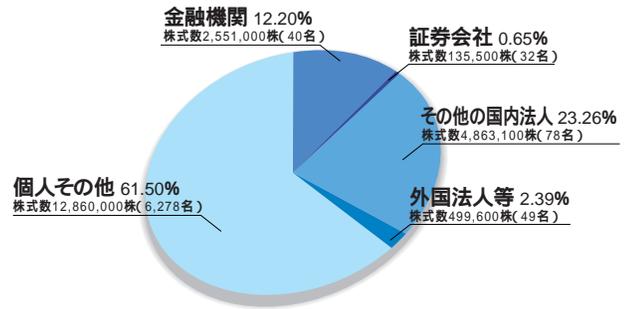
所有数別分布状況



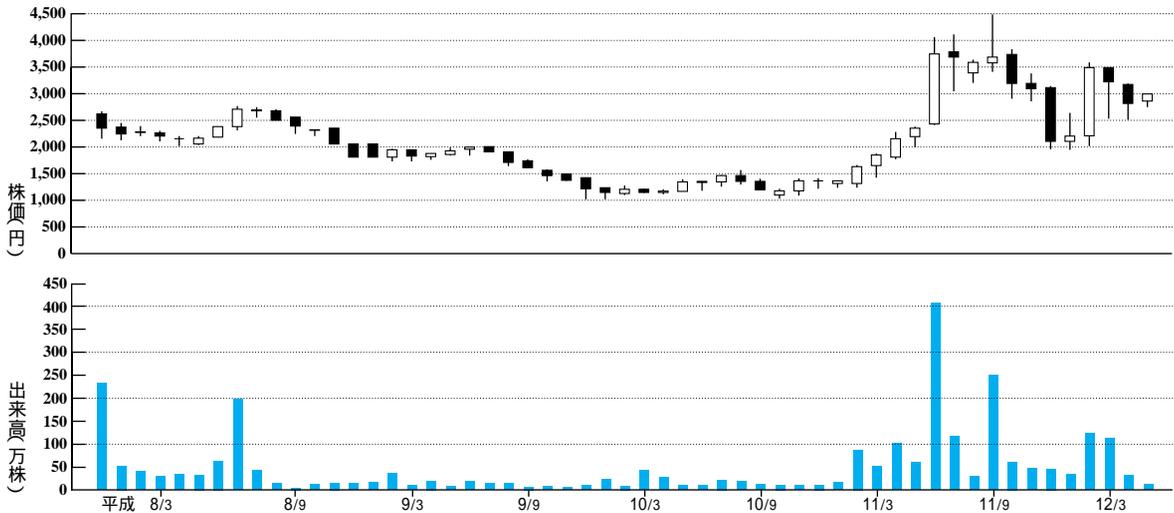
株主数の推移



所有者別分布状況



株価・出来高の推移



平成8/7までは大証株価、翌月以降は東証株価を使用

株 主 メ モ

決算期日	3月31日	株式事務	
定時株主総会	6月	名義書換代理人	〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社
基準日		同事務取扱場所	〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	3月31日		(郵便物送付先、電話照会先) 〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
利益配当金	3月31日		三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5391-1900(代表)
中間配当金	9月30日	同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
その他必要がある場合は、あらかじめ公告して 設定します。			
公告掲載新聞	日本経済新聞		
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部	お知らせ	1.住所変更、配当金振込指定・変更、単位未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。 2.配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができますようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
証券コード	6869		
1単位の株式の数	100株		

会 社 概 要

商 号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION ('98年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更)	主な関係会社 メディカ株式会社 トーマディカル株式会社 シスメックス物流株式会社 株式会社アル・エー・システムズ SYSMEX CORPORATION OF AMERICA (アメリカ) SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.(アメリカ) SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC.(アメリカ) SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA(ブラジル) SYSMEX EUROPE GMBH(ドイツ) SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ) SYSMEX UK LIMITED(イギリス) SYSMEX BELGIUM S.A.(ベルギー) SYSMEX MOLIS S.A.(ベルギー) SYSMEX FRANCE S.A.R.L(フランス) 済南希森美康医用電子有限公司(中国) 希森美康医用電子(上海)有限公司(中国) 希森美康医用電子(香港)有限公司(中国) SYSMEX SINGAPORE PTE LTD(シンガポール) SYSMEX (MALAYSIA)SDN BHD(マレーシア) SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PVT.LTD.(インド) SYSMEX (THAILAND)CO.,LTD.(タイ) MED-ONE CO.,LTD.(タイ)
設立年月日	昭和43年2月20日	
資 本 金	33億8490万円	
従業員数	1003名 嘱託およびパートタイマー207名は含んでおりません。	
主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならび に関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入	
主な事業所		
本 社	神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524	
テクノセンター	仙台支店 営業所	
加古川工場	東京支店 札幌、盛岡、大宮、千葉、	
小野工場	名古屋支店 横浜、新潟、金沢、静岡、 大阪支店 京都、神戸、広島、高松、 福岡支店 鹿児島	

役 員 の ご 紹 介

取締役社長 (代表取締役) ... 冢次 恒	取締役 ... 中嶋 国雄	取締役 ... 大東 重則	常勤監査役 ... 天野 好勝
専務取締役 ... 雪本 賢一	取締役 ... 日置 栄一	取締役 ... 山本 博	常勤監査役 ... 植益 純隆
常務取締役 ... 岡田 徳弘	取締役 ... 中谷 正	取締役 ... 中嶋 幸男	監査役 ... 石田 義典
常務取締役 ... 和歌 光雄	取締役 ... 林 正好		

データは全て平成12年3月31日現在のものです。ただし株価、出来高の推移は平成12年5月31日現在のデータです。

シスメックスは、みなさまの健康情報をいつも見つめています。

シスメックスの製品が医療のどのようなところで活躍し、みなさまと深くかかわっているかを、検査の手順を追ってわかりやすくご説明いたします。



健康診断

職場や地域で定期的に健康をチェックします。

病院

体の調子が悪くなると病院を訪れます。

臨床検査

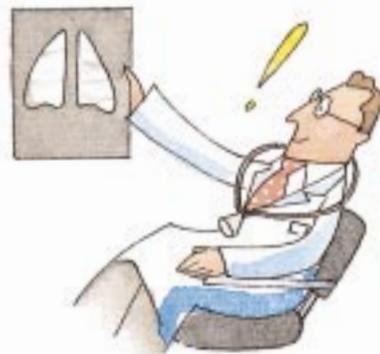
体内の健康情報を調べる「臨床検査」が行われます。異常が発見されると医師は、この情報をもとに診断し、治療を施します。臨床検査には「検体検査」と「生体検査」があります。

検体検査

体内から採取した血液や尿、細胞(検体)などを調べる検査を「検体検査」といいます。

生体検査

レントゲンや心電図、脳波など体を直接調べる検査を「生体検査」とよんでいます。



シスメックスの製品が活躍するフィールド

私たちシスメックスは、「検体検査」分野の「血液検査」「免疫血清検査」「尿検査」を行うため、高機能な検査機器や各種検査に必要なさまざまな試薬を幅広く提供しています。



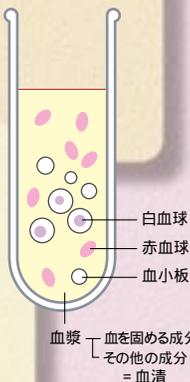
血液検査

免疫血清検査

血液が固まった後の上澄みの部分である血清を検査し、ガンにかかった時に血液中に増えるたんぱく質や、ウイルス感染などの指標となる血液中のたんぱく質を調べます。

尿検査

尿は血液が腎臓でろ過されて体外に排泄されるものです。ほとんどが液体成分ですが、体のどこかに異常があると、排泄されてはならない固体成分が尿に混じるため、この成分や性質、量などを調べます。



血液検査には、血球成分の形や量を調べる「血球計数検査」と血液の固まる働きを調べる「血液凝固検査」があります。

[血球計数検査]

赤血球・白血球・血小板の数や種類、形状を測定するとともに、ヘモグロビンなど貧血に関する項目などを調べます。

赤血球

体中に酸素を運び、二酸化炭素を運び去るはたらきをしています。赤血球が不足すると、体内の酸素が欠乏し貧血を起こしやすくなります。

白血球

体内に侵入した細菌などに対抗し、病気に対する抵抗力を強めるはたらきをしています。そのため不足すると、病気にかかりやすくなります。

血小板

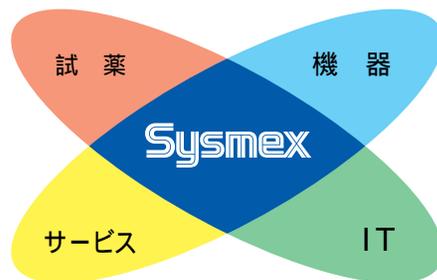
出血を止めるはたらきがあり、血小板が少なくなると傷口が塞がりにくくなったり、出血しやすくなります。

[血液凝固検査]

血液から血球成分を取り除いた血漿を検査し、血液が固まる機能や、血栓症の原因となる血液凝固異常などを調べます。

さらに、効率のよい、正確な検査のために

シスメックスでは、検体検査に必要な機器や試薬の製造・販売・サービスを提供するとともに、ソフトウェアやIT技術を活用することによって、体に関する膨大な情報を一元管理し、高度化する医療ニーズにお応えしています。



Fields

シスメックスの製品は、日本をはじめ
世界125カ国以上の国々で使用されています。

Worldwide report

● Curitiba
BRAZIL

シスメックス

海外事業所通信—③

ブラジル クリチバ



新しいマーケットを開拓する 中南米の拠点

SYSMEX DO BRASIL
INDUSTRIA E
COMERCIO LTDA

Ms.Regina Rissa Baba
Administrator



今年、世界はミレニアムイヤーを迎え、当地ブラジルは大陸発見から500年目という記念すべき年です。それに加え、シスメックスは2月、ブラジル現地法人「SYSMEX DO BRASIL」において本格的に試薬生産を開始しました。まさに、今年は私たちにとって印象深い、特別な年になっています。

「SYSMEX DO BRASIL」は、試薬生産機能とマーケティング機能を併せ持つ中南米市場の拠点として設立。検査に必要な試薬を現地で生産することにより、お客さまに試薬を安定して供給できるようになりました。生産品目も順次拡大し、最近ではチリ、ウルグアイ、

アルゼンチンなどにも試薬をお届けしています。工場は Curitiba市の工業推進地区にあり、ここでは先進国なみの都市計画が進められ、教育機関や交通機関が整っています。また、緑にあふれ、さまざまな国の人々が暮らす、国際色豊かな町です。

ブラジルといえば、サッカーとサンバの国。これらは国民的関心事で、子供たちはサッカーをするために生まれてきたといっても過言ではないでしょう。また、毎年2月頃には、各地でカーニバルが行われ、子供からお年寄りまでさまざまな人たちがサンバに興じます。中でも、リオ・デ・ジャネイロのカーニバルは世界的に有名で、さまざまな国々から大勢の観光客が押し寄せ、都市機能が完全にストップしてしまうほどです。

自然豊かな、情熱の国ブラジル。21世紀におけるシスメックスの中南米マーケットに向けた、試薬生産の拠点として、今後とも積極的な活動を展開します。

